

JOB REPORT

需要ニーズに応えたコイン回収装置K-158

発端&目的

昭和60年夏、某宗教法人から、社殿境内の噴水付小形池に参詣人が投入するお賽銭を回収する何かよい方法がないか、との相談を受けた。

宗教法人として、池中の賽銭を近所の子供達が拾いに来て持ち帰ること自体は大した問題ではないが、放置しておくとならぬ子供達に盗人心を芽生えさせることになり、歪んだ精神を持たせてしまう可能性のあることが大きな問題である。

この問題となる要因を事前に除去し、盗人心の芽生えを防止することこそ宗教人の、否、大人の責任であり、お賽銭を回収する目的である。

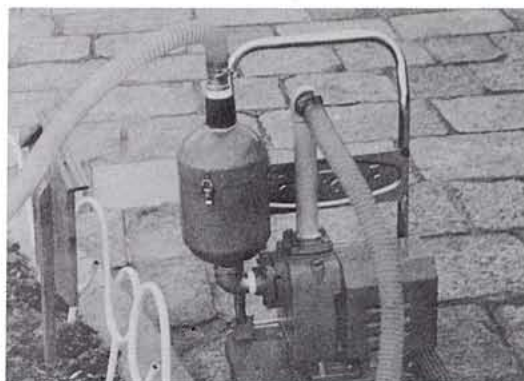
経過説明

前述の責任と目的で開発に着手する。

当初 PC-III 形を部分改造し、現地実施テストを繰り返えし、写真の物を製作し、昭和60年年末に納入した。年明けの正月、予想通り参詣人は境内の池にかなりのお賽銭を投入していた。早速、当装置が使用され、効率よく回収作業がされ、威力が発揮された。大変喜んで頂いている。

開発に当り、下記の問題点を考慮に入れた。

- 水中に作業者が浸ることなく操作可能なこと。
- 池中の水を放流することなく使用可能なこと。
- 1人でも作業可能なこと。
- 音を小さくし、騒音公害にならないこと。
- ガス等による排気ガス公害にならないこと。
- 移動効率、作業効率がよいこと。
- 腐食に対する抵抗力があること。



コイン回収装置▶

使用状況

参詣人及び投入賽銭の多少に左右されるが、週1回程度の割合でコイン回収がされている。この正月にはバケツ1杯分のコインが回収された、と聞いている。

操作手順としては、池の周りに装置を運び、コイン集積部に呼び水を補給し、排出口と吸込口を池の水中に浸し、セットし、電源をONにする。パイプやホース内のエアが抜ける迄に40秒程度の時間が必要であるが、エアが抜けると吸引が開始される。吸込パイプを水底のコイン位置へ移動させると、勢いよくコインが吸引回収される。1円玉から500円玉まで各種硬貨、及び小砂利、ゴミ等がどんどん吸引されてゆく。

細かいゴミを回収する目的で、フィルターバックを排出ホースの先に取り付けることも可能である。

御納入先

宗教法人 辯天宗 冥応寺
茨木市西穂積町7番41号

▼賽銭の投入された池からコインを回収



▼回収作業後のコイン集積部

